

関連項目：教育活動プラン②

言語活動を充実させ、コミュニケーションスキルを育成する

目的

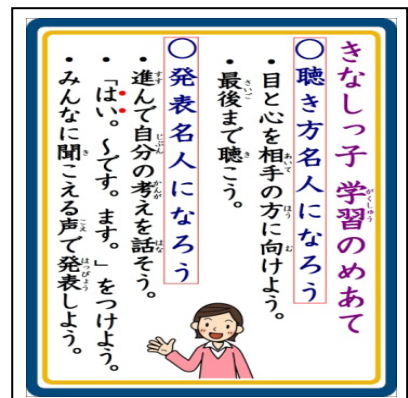
本校の児童は、素直で落ち着いた子どもが多い反面、授業中の話し合いや発表などの交流活動では、自分の考えに自信が持てなかったり、友達や教師の意見や問いかけに対して十分な反応ができなかったり、やや主体性に欠けたりする児童が見られます。そこで、個々のコミュニケーションスキルを高めることにより、自己表現力や自己肯定感を高め、相手を尊重し、理解する「人間関係を築く力」を育てていくことをめざしました。

内容

● 「きなしっ子学習のめあて」の作成

コミュニケーションスキルの基礎を「話す力・聴く力」と考え、全職員で「きなしっ子学習のめあて」を作成し、全校集会で紹介しました。また、すべての教室に「きなしっ子学習のめあて」を掲示することで、児童が常に意識できるようにしました。

さらに、これまで行っていた毎日の生活目標の振り返りカードに、「きなしっ子学習のめあて」の振り返りの項目を付け加えることによって、自己評価に基づく個人目標の設定と意識の継続化をねらいました。



● 現職教育における研究主題として

現職教育の研究主題を「豊かなコミュニケーション能力の育成」として、各教科等における言語活動を充実させてきました。具体的には、4回行われた校内研究授業で、グループ学習・ペア学習等の効果的な交流の在り方を研修したり、各担任がそれぞれの教科において意図的・計画的にコミュニケーションスキルを高める重点単元を設定したりして、その成果を広げ、深め合いました。



● 異学年交流やボランティア活動など、友達と関わる場の設定

異学年交流やボランティア活動など、友達と関わる場面を設定することで、各教科などで培ってきたコミュニケーションスキルを生かす場面を増やしました。同学年だけの関わりだけでなく、異学年でのかかわりの中で、コミュニケーションスキルをこれまで以上に高めていけたと考えています。



成果

こうした取り組みをすることで、1月末に行った学習についての児童アンケートでは、「ペアやグループ学習など進んで話し合うことができているか。」の項目で約80%、「学習中は先生や友達の話聞いていますか。」の項目では約90%の児童が「はい」「だいたい」と肯定的な回答をしました。この結果からみると、コミュニケーションスキルが少しずつ育成できてきたことが分かります。また、実際に児童の姿を見ても、授業中のペア活動やグループ活動時には、友達間で熱心に意見の交流を行うことができる児童が増えてきたように思います。